

ニッポン発二一世紀オリジナル

く 鈹脈としての日本長寿社会く

堀 亜起良

元『知恵蔵』編集長 堀内正範

はじめに 1

世界の宝石鈹脈としての日本

第一章 日本初出のオリジナル人生

「華麗な加齢はだれのもの」 4

加齢が価値でありつづける人生 * 東洋の哲学では「生命体」が存在原理

「がんばらない」と「がんばる」と * 「老人力」と「丈人力」を交々に

「人生六五年」から「人生九〇年」へ * 「引退余生」でなく「現役長生」で

「体・志・行」がケア三元カテゴリー * 家庭内「雑事」で健康寿命を延伸

「三世代平等型」長寿人生 24

「G型ライフサイクル」 * 「三世代」を平等に位置づける

成長・成熟・円熟の二五年三期を体感 * 高齢後期からは「フレイル」に注意

「賀寿期五歳層」はハステージ * 仲間とともに「賀寿期」を過す

第二章 モノ語りするマイホーム

「マイホームに「MY・・」がない 37

団塊パパとママの憂鬱 *アノ人とかヒカラビてる人とかいわれて

「ヒツペガシ娘」vs「ツカエナイ親父」 *総理は女性と若者に肩入れ

家庭内ホームレスの予感 *どうする家庭内孤立パ。

「わたし」のモノの存在感 48

マドギワに「MY・チェア」を据える *即座の効用は不在時の存在感

わたしのモノ同士のモノ語り *専用用品を結ぶ暮らしネット

「四季カレンダー」と「床の間春秋」 *「季節感」を活かす和風回帰

一日の課題を「八方時刻」に振り分ける *三時間ごとに一課題

目 「暮らしの知恵」を次世代に伝える 62

「実家依存症」といわれても *M字型でなく真一文字型の女性就労

「三同同(三世代同等同居)型」住宅 *メーカーが高齢化対応で配慮比べ

暮らしの知恵を次世代に伝える *「ジージ」を自慢するジユニア

第三章 高い感性に伝えるモノづくり

I 「MADE IN JAPAN」のゆくえ 71

「サンパク以後(三八九一五)」は片下がり *高齢者に内在するデフレーション

九割中流という「近似大同社会」を実現 *職場に息づく品質(モノ)と品格(ヒト)

「MADE IN JAPAN」のゆくえ *丈夫で長持ちする中級品に評価

㊦ 途上国産の日用品に囲まれて 79

アジア開化で「途上国産品」がニッポン乱入 *「アジアの共生」(モノの豊かさ)を実感
家庭に「百均グッズ」・職場に「非正規社員」 *途上国日本化による日本途上国化

途上国製品が安価粗悪を脱するとき *「足踏み」していた熟練技術者が動く

㊧ 頼れる優良国産品が再登場 87

やや高安心の優良国産品が再登場 *生産現場より流通から対応

「成熟+円熟」商品がGDPを拡大 *アメリカ型「成果主義」の成果は限定的

日本型マネジメントに活路 *「新・終身雇用」と「新・年功序列」

「SWIT型会議」で一品三種をコーディネート *製品に「和の絆」を組み込む

㊨ 「新地産ブランド品」で全国制覇 102

「地域特性」が息づくまち *みんなでつくる「新地域特産品」

全国版「地産ブランド品」を競い合う *「農業六次化」と「当地グルメ」

三世代の意欲的企画の合流点 *「三世代ふれあい館」なんていいね

第四章 三世代四季型まちづくり

1 ひろみやまを憩う中心街 112

夜はコンビニの明かりが頼り *商店街は「モノと暮らしの情報源」

「歩行生活圏」と「車行生活圏」 *中心街に集う高齢者と子ども

「三世代四季型中心街」でひとときを憩う *日課としての「買い物+散歩」

㊦ 住み慣れた地域で暮らす 122

「現風景に」「ふるさと原風景」を重ねる *Uターンする人びとの願い

「ニシキ族」より「キキヨウ族」

* 孫と暮らせる「ふるさと創生住宅」

横並びの均衡、横比べの特性

* 「国土均衡」に「地方特性」を上乗せ

わがまち独自の「地域助け合い」

* 「地域協議体」が活動の中心拠点に

目 友人十生きがい十まちづくり

136

明治・昭和「大合併」では人材養成

* 「村立尋常小学校」と「町立新制中学校」

「市立（公立）生涯大学校」の新設

* 地域が求める高齢人材を養成

生涯の友と学ぶ地域カリキュラム

* まちづくりに知識・技術を活かす

第五章 九割中流から「失われた二〇年」

一 「失われた二〇年」 145

高齢社会対策の「基本法」「大綱」から二〇年

* 二〇年の「迷路」からの脱出口

高齢者はすべて「社会の被扶養者」か

* みんなで渡った「霞が関の赤信号」

九割中流からの急転直下

* 「老後破産」と「下流老人」

二 高齢社会対策担当大臣に責任

160

意識やしくみを変える対策が延滞

* 事業延滞の責任者さがし

二〇一二年に「大綱」を改定

* 知らされない高齢者

歴代の「対策担当大臣」への要請

* 内閣府に専任の担当大臣を置く

目 広がった亀裂・格差をどうする

171

「権陀多（カンダタ）」の話

* また大震災に見舞われて

「非を飾る」若者たち

* 「時代に関わらない」という高齢者

「IT化と「デジタル・デバイド」

* スマホ娘は「オンライン親父を蔑視

現役中年にはにぶい賃金上昇 *世代間に亀裂が広がる

㉓ 高齢者間に見る較差 186

かつて功いまは罪の「急流勇退」 *「隠退」で知識・技術を持ち去る

「隠退ウーピーズ」として *「陽来福」型の高齢者層

「ほどほどの赤字人生」が男の美学 *「先憂後楽」型の高齢者層

「貯蓄ゼロの日」へのカウントダウン *「戦々兢兢」型の高齢者像

㉔ 大正生まれの人びとへのオマージュ(賛辞) 200

かあさんは許さない *「亜流歴史劇」再演プロローグ

「良妻賢母」に育てられて *大正生まれの母たちの人生

大正生まれの人びとへのオマージュ(賛辞) *働きづめに働いた人びとの本音

第六章 ニッポン発二一世紀オリジナル

㉑ 「日本長寿社会」の達成へ 214

「高齢社会グランドデザイン」を掲げる *各界の構想力を集めて

「平和団塊」が長寿社会を体現 *「平和団塊」のみなさんの横顔

世界トップで「三世代平等社会」を達成へ *すべての世代が等しく参加

㉒ あたたかな「地域生活圏」の形成 230

地域の歴史をつくる劇的な実感 *高齢化率二一%からは「長寿社会」

さまざまな高齢社会構想 *「環境未来都市」「環境モデル都市」(内閣府)

*「高齢社会領域15プロジェクト」(RISETEX)

*プラチナ大賞(プラチナ構想ネットワーク)

「高齢社会活動」の現場からの発言

目 国際人としての多重性 251

国民性としての「ホスピタリティ」 *自然にあふれ出る「おもてなし」の心

外国人リピーターを増やす接客法 *領土小国を四倍に見せる法

「ローカル街着」の国際性 *反洋装バリコレの和装トータル

「1999国際高齢者年」からのメッセージ *国連「高齢者五原則」が指針

不戦不争の灯かりを伝えて 264

「戦後七〇年目」の八月の心 *命をいう女性と戦場をいう男たち

不戦不争の灯かりを伝えて *「日本国憲法一〇〇年」を国際的に祝う

「ノウサギ平和主義」 *国際平和会議と「第三回WAA会議」の招致

「寿終正寝」(天寿)を全うする 277

「人生の達人」としての八面玲瓏 *「名人」と「達人」との違い

高齢意識は未熟か半熟のまま *「フレイル以前以後」の社会参加

「寿終正寝」(天寿)を全うする *「自己実現」と円熟エンディング

おわりに 290

二〇〇〇年の歴史遊行の旅 *洛陽で得たふたつの自己目標

赤い兎の目と戦争の記憶 *灯火管制の下で・・